

春季彼岸会永代経法要の御案内

慈光はるかにかぶらしめ ひかりのいたるところには
法喜をうとぞのべたまふ 大安慰を帰命せよ

(親鸞聖人『浄土和讃』)

「癒し系」という言葉が流行るようになって、大分時間が経ちました。皆様にとって「癒される存在」とは何でしょうか？身近な友人、若しくはペットかもしれません。しかしながら、その時は癒されても、暫くすると現実に戻されてしまいます。



また、ある先生の本には、「私たちの慰めは殆どが同情である」と書かれていました。私たちが「癒し系」という言葉を使う時、私にとっての「慰め」である、つまりそれは私の都合の延長でしかありません。親鸞聖人が示しておられる「大安慰」とは、「私たちの苦悩を知り抜いた上で大いなる安らぎへと導いて下さる仏様」という意味です。

この度は「慈光はるかに」という講題を頂いております。是非とも「大安慰」に出遇って頂きたいと思います。



今年の春季彼岸会永代経法要においては、今のところ平常通り勤修致す予定です。引き続き感染症対策はして参ります。換気もしますので暖かくして御参詣下さいませ。



日時 3月20日(土) 午後1時半より
講師 元龍谷大学教授 貴島 信行 師
講題 『慈光はるかに』